

音楽の授業から

教育後援会を通して保護者の皆様などからお預かりした助成金やバザーの売り上げは、学校で有効活用していただいております。今回は、それで購入したピアノやドラムなどを活用している音楽の授業の様子をご紹介します。

音楽科を担当している瀬宮と申します。音楽の授業を通しての年間の発表について、ご紹介させていただきます。

音楽を通して高校生活の中で仲間を作るとともに、音楽を楽しむこと、共に技術の向上を目指して努力する豊かな心を育てて欲しいという願いもあり、授業だけではできない活動として、12月終業式の日にはクリスマスコンサートを開催し、3月には音楽選択者全体でのコンサートを行っています。

今年は、コロナ禍で我慢を強いられている生徒さんに、可能な範囲で音楽を仲間と楽しむ時間を作ろうと思い、文化祭への参加を初めてさせていただきました。

授業では毎年、合唱・歌唱・器楽合奏・ギター・リコーダーなど、偏りのない内容を取り上げて楽しめるように考えています。また、アンサンブルの形式を取り入れることにより、コミュニケー



芸術科(音楽) 瀬宮ゆき



ションをとりながら、表現の工夫をし、調和することの楽しさを感じて欲しいと思っています。

〔文化祭参加生徒の感想〕

文化祭でチェロの演奏をすることができたことにも感謝いたします。音楽科のお手伝いいただいた皆様ありがとうございました。

色々なジャンルの発表にたくさん参加させていただくことができ、普段の自分の好きな音楽とはまた別の楽しみを見つけることができました。他のグループの発表も、どれも一生懸命練習した成果が発揮されていて、とてもよかったです。

合唱のピアノ伴奏や、キーボードの五重奏、自作の楽曲の披露、などを通して、音楽を楽しむ仲間たちとのセッションが (出演者+企画運営者+練習)×演奏=∞ の輝きになることを体験できました。これからも音楽で日常を彩っていきたいと思います。瀬宮先生、貴重な発表の機会をいただきありがとうございました。

〔クリスマスコンサート参加生徒の感想〕

クリスマスコンサート、演奏者も観客もみんな盛り上がり、とても楽しかったです！ 来年も是非やりたいと思っています！ 会場の準備や衣装の貸し出しなど、本当に色々とお世話になりました。ありがとうございました！！



教育後援会だより第24号 令和5年3月3日発行

東工大附属高校教育後援会 発行人 伊本 淳平

HP tokodaihuzoku-koenkai.jp

制作・印刷 株)あおむし http://www.aomushi.com

東京工業大学附属科学技術高等学校 教育後援会だより



第24号 2023年 3月3日発行



附属高校の大岡山キャンパスへの移転について

教育後援会会長 伊本 淳平

生徒の皆様、保護者の皆様におかれましては、いつも教育後援会の活動にご理解と多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。

詳細は5月の総会資料にてご報告致しますが、令和4年度に於きましても、皆様より多大な額の助成金を頂く事ができ全額高校に納入致しました。これもひとえに教育後援会役員の方々の皆さん含めた皆様のご協力のおかげであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、昨年2022年の7月、かねてより計画が進んでいた2026(令和8)年4月の校舎移転の発表が大学側から正式になされ、さらに続けて2024(令和6)年度中を目途とした東京医科歯科大学と東京工業大学の統合という驚きの発表がありました。

言わずもがな、MRI、内視鏡と画像解析、手術用ロボット・医療用マニピュレータ、遺伝子治療などの高度先端医療に於いて科学技術の発展とは切っても切れない関係に有り、両校の統合によって日本の学術界や産業界に新たな可能性が生まれるということが期待できるでしょう。

工業科学分野に於いて最高峰かつオールラウンドである東工大の教育内容に新たに医療という分野が加わり、「高大連携」といった指針を鑑みれば附属高校の教育についても医療分野に直結するカリキュラムが加わるかも知れず、このタイミングで大学のキャンパスに本校が移転するのは設備の共有や人的交流による教育環境の充実という利点を考えれば絶好の機会なのかもしれません。

とは言え、本校のOBや在校生とその保護者の多くの方々からは一抹の寂しさを感じるとのご意見を頂きました。かく言う私も本校OBの一人でありまして(1986年3月機械科卒)、3年間田町キャンパスに通った身としては、ここに校舎が無くなってしまふのはやはり寂しい思いを抱かざるを得ません。

ただ、現在の本館(1号館)、実験棟(2号館)、ホームルーム棟(4号館)は耐震工事など施工されつつも当時と変わらぬ姿で使われ続けておりますが、やはり老朽化は避けられず、大岡山に新築・移転することで様々な課題が解消されること、大学の統合と併せて考えても最良の選択肢なのかもしれません。教育後援会も新しいキャンパスに於ける施設の充実面に関しては全面的に協力したいと考えております。

令和4年度を振り返りますと、昨年度に続き生徒・保護者の皆様、先生方・学校関係の皆様は受験を含め、授業の実施や各種行事へのご対応に大変ご苦労なされたかと思いますが、後援会にとっても引き続き我慢の年でした。文化祭の恒例のバザーも取り止め、家庭科室での三密を避けるために料理教室も再開を見送りました。

一方、屋外イベントである庭園見学会は今年も開催し、横浜三溪園の広大な敷地の中で参加者の皆様には秋の景色を楽しんで頂けたと思います(紅葉ちょっと早かった)。

役員会も今年度から会場の出席人数の制限を撤廃したものの、鈴木先生、今田先生たち後援会世話役の先生方のご厚意により学校のPCやネットワークを利用して頂き、昨年度に引き続きリモート環境と併用で開催することが出来ました。

学校行事なども徐々にコロナ禍以前の活動に戻りつつあり、令和5年度からは文化祭の一般開放とバザーの復活を祈っております。田町キャンパスの存在も残すところあと数年で大岡山では学校名ですら変わってしまうかもしれませんので、出来る限り多くの縁のある皆さんが目に焼き付けたり、デジタル媒体で記録を残せば良いかと思っております。

引き続き教育後援会へのご理解ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。



※写真は私のクラス卒業文集で、タイトルも編集委員がこの地に愛着を込めて「田町」と名付けました。当時の校長であった平井聖先生(NHK大河ドラマの時代考証で有名です)や他の先生方も卒業祝いに寄稿して下さいました。

好奇心旺盛に、ユニークなかけがえのない存在に！

2009年 応用化学分野卒 渡邊 雄一郎



「東工大附属高校での出会いは一生の宝物」これが、私の正直な意見です。学びの場として、人・環境の両面からベスト！と断言できます。私は、2009年に応用化学分野を卒業後、山形大学工学部へ進学しました。2018年に博士号(工学)を取得した後、夢を追って海を渡り、米国パデュー大学化学科にて修行を積みました。昨年、京都大学工学部の助教に着任し、教育・研究に情熱を注いでいます。今回は僭越ながら、東工大附から始まった、海を渡る研究生活、そして現在について紹介しながら、感じ気付いたことを綴らせていただきます。

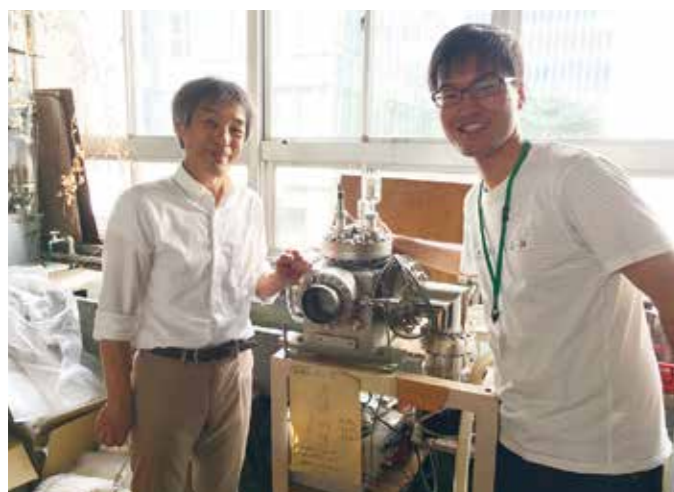
● 東工大附属高校=好奇心を養う最高の場！

小中学生の頃から、昆虫採集や化石発掘、スライム・結晶・模型づくりといった遊びが大好きでした。そのような中、東工大附属高校の実験の多いカリキュラム、課題研究の存在を知り、迷わず受験しました。文字通り、盛りだくさんの充実した3年間を過ごすことができました。特筆すべきは、素晴らしい先生方に恵まれたことです。例えば、1年時担任の長谷川大和先生は、ホームルーム時に面白そうなイベントをわかりやすく紹介して下さいました。説明を聞く度にワクワクして、気づいたときには10回以上のイベントに参加していました。このイベントがきっかけとなり、山形大学への進学を決めました。



高校3年生の頃、課題研究仲間と

また、高学年時の担任であった長谷川清隆先生には、日頃から常にポジティブなお声がけをして頂きました。英語授業や普段の会話の中で海外への関心をより強く持つようになりました(毎日が楽しいクラス生活で、今もハセキヨ先生が作って下さった集合写真カードを持っています!)。そして、応用化学分野の先生方との出会い・授業・課題研究を通して、化学実験の面白さ、化学と身の回りのものとの「つながり」を感じることができました。東工大附にしかない環境のおかげで、自然と一まるでスポンジが水を吸収するように主体的に多くの知識やモノの考え方を身につけることができたと感じています(もちろん、スポンジとは違って絞ってもでてこない!)。先生方のおかげで、積極性や好奇心を養うことができたことをとても感謝しています



成田先生と課題研究で作製した装置の前で

● 課題研究に没頭！山形大学へ進学を決意

2年生の冬、2泊3日の研究体験プログラム「山形大学工学部城戸淳二研究室：有機の光で照らしてみよう」(JSTサイエンスキャンプ)に参加し、有機ELの虜(そして城戸先生の虜)になりました。世界初の有機ELテレビがSONYから発売されたばかり、さらに森安勝先生の「有機化学」の授業でベンゼンを勉強し始めたタイミングでしたので、刺激的な経験となりました。有機ELを題材に課題研究を行うことを決意しました。成田彰先生に指導して頂き、朝から晩まで、古谷くん・乾くん・渡邊の3人体制で、発光分子の検討やデバイス装置作製に没頭しました。機械科・電気科の先生方にもご助言を頂きながら真空蒸着装置・溶液キャスト装置などを作製しました。半年以上かけて完成した装置を使って、素子を作れるようになった日の感動は今でも忘れられません。残念ながらディスプレイを作るまでには至りませんでした。この小さな成功体験は大きな自信へと繋がりました。そして漠然と、「大学等の研究機関にて研究をしたい」と夢を描くことができました。自分の好きなことにとことん向き合うことのできた最高の高校生活となりました。

● 山形大学で博士を取得 —夢を目指して海を渡り米国パデュー大学へ

山形大学工学部城戸研究室にて、有機ELの低消費電力化に資する材料の開発に従事し、博士号を取得しました。世界トップレベルの有機EL開発に向けた共同研究に関わる機会を得て、チームで研究する楽しさ・嬉しさを感じながら「世界を相手に研究すること」にやりがいを見つけました。

私の現在の夢は3つあります

1. 人々をワクワクさせる研究をする！
2. 材料で世界を変える！
3. 教科書に名を刻む！です。

こうした夢に向かって自分の力試しをする目的で、博士号取得後、日本学術振興会の研究員として、渡米することを決めました。米国インディアナ州パデュー大学 Prof. Alexander Wei 研究室にて、電気化学合成装置の開発、刺激応答・バイオイメージングを志向した発光色素の開発といった新しい分野への挑戦をしました。いずれの研究も、私の専門とWei 教授の専門を組み合わせ



新しいテーマで、現在もアクティブに継続しています。米国大学の「研究室へ外の血を積極的に取り入れる技術更新のスピード感やその流動性」

には目を見張るものがありました。今まで学んできた知識を使う最高の場で、多くの失敗も含めて思考や戦略を試すことができ、成長するきっかけとなりました。また、Wei 研究室の隣には、ノーベル賞受賞者の根岸英一研究室があり、根岸先生と交流する機会を得ました。研究者としての薫陶を受けたことを生涯忘れません(2021年6月6日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。)



根岸英一先生と(2019年)



アメリカでの Lecture の様子



アメリカの仲間(マラソン大会)

● 日本へ帰国し、京都大学でのスタート

2022年2月に帰国し、京都大学大学院工学研究科、杉安和憲教授研究室に助教として着任しました。ゼロからの研究室の立ち上げに奮闘し「あっ!」という間に丸一年が経ちました。皆で協力して、コツコツとラボを作り上げていく日々…まさに最高!の環境にいる幸せを噛みしめています。また、成田先生にお声がけ頂き、



母校訪問時の授業風景

母校で授業する機会も得ました。「地方大学への進学」と「海外の大学で学ぶ・研究することの意義」についてお話させて頂きました。授業後に、「大学ってどんなところか分かった・留学について関心が下がった・モチベーションがあがった!」とコメントを頂きました。少しでも進路選択に私の経験が参考になったのなら嬉しい限りです。

この数年、いろいろと制限の多かった高校生活で不完全燃焼だった人もいるかもしれませんが(私自身、渡米後数ヶ月でロックダウンとなり、悩んだ時期もありました)。みなさんが、トコトン打ち込める物事と出会い、情熱を注ぎ、そしてユニークなかけがえのない人財になれることを心より祈っています。東工大附の先生方に高校生時から科学・研究の面白さを教えて頂いたことに最大級の感謝をしています。卒業生として、今後の日本の科学技術に貢献できる日が来ることを信じ、夢に向かって邁進していきます。



京都大学の研究室集合写真



成田先生とビデオ通話(成田の先生方と!)





教育後援会の事業である庭園見学会が行われました。

一昨年はコロナ禍で中止となりましたが、昨年から復活して開催され今年で14回目となりました。開催されたのは11月19日(土)。場所は、横浜本牧にある三溪園にて行われました。

今年も、まだまだコロナ禍の影響は拭えませんが、徐々に学校行事も復活し始め、規模は縮小されていますが、運動会、文化祭、修学旅行と行われたよう

です。見学当日は、秋晴れの絶好の日となり、気持ちのよい見学会を催すことが出来ました。場所は最寄りのJR根岸駅からバスで10分。さらに歩いて10分少々でしたが、歩いてだんだん近づくに従い何十台もの自動車が渋滞して並んでいました。三溪園の駐車場がいっぱいで入れず大変なことになっていましたが、歩いてきたものは難なく入園できました。



●三溪園について

三溪園(さんけいえん)は、神奈川県横浜市中区本牧三之谷にある庭園。17.5haの敷地に17棟の日本建築が配置されている。実業家で茶人の原富太郎によって1906年に造園され、現在は公益財団法人三溪園保勝会が運営しています。名称の三溪は富太郎の雅号である。三溪園は、国の重要文化財建造物10件12棟、横浜市指定有形文化財3棟を含め、17棟の建築物を有し、2006年11月17日に国の名勝に指定されています。



くぐると、三溪園見学の目玉の一つ「臨春閣」(重文:紀州徳川家)が、その美しい姿を水面に映し迎えてくれました。ここで集合写真を撮とり、豊臣秀吉の母・大政所ゆかりの「旧天瑞寺寿塔覆堂」(京都:大徳寺)の前を通過して「臨春閣」に近づきます。三溪は、元々の建物の屋根の形、3棟からなる建物の配置を雁行形式に変更し「桂離宮」を彷彿させる姿としました。さらに進むと、三溪園で一番有名な「聴秋閣」が見えますが、順路は急な階段を登り「月華殿」(重文)「金毛窟」



「天授庵」(重文)へと誘います。お堂、茶室、御殿の一部などタイプの異なる建物が配されています。階段を下り、高い視点から「聴秋閣」(重文)の優美な屋根の形に感嘆しながらアプローチします。色づきだした紅葉と一幅の景色になっています。徳川家光の上洛に際し、二条城内に建てられたと伝えられています。思ったより小さい建物ですが、気品があり自ずと格の高さを感じられます。三溪園の白眉といえます。名残惜しいですが先に進むと「春草廬」(重文)が見えます。織田信長の弟・織田有楽斎の作と伝えられます。何十年も前の修学旅行で建築科の生徒を連れて訪れた国宝・犬山城の足元に移築されていた国宝・如庵がありました。同じ有楽斎の最高傑作と通底する意匠を見いだせます。「春草廬」の繊細な佇ま



●見学開始

午後2時前に正門内広場に集合しました。参加者は、伊本会長をはじめ、仲道先生、連絡係の今田先生、後援会の役員さん、保護者の皆様など合わせて41名となりました。また、お料理教室でお世話になっている大塚シェフが今年もご参加いただきました。



伊本会長の主催挨拶後、見学を開始しました。今年久しぶりに復活したボランティアガイドさん2名が付いてくれましたので、2班に分かれ見学開始です。この三溪園は、庭園北西部の「内苑」と南東部の「外苑」に分かれています。戦前まで、外苑のみが一般に開放されていて、内苑は原家の私的なエリアとして使用され、一般の人は立ち入ることができませんでした。この内苑に特に重要な建物が集中しているので、こちらから先に見学に入りました。



内苑の入り口「御門」(京都から移築)を

いに感心していると何やら不気味な物体が現れます。奈良で出土された大きなバスタブのような「石棺」(家形石棺5~6世紀)と石棺のフタ(舟形石棺蓋3~4世紀)などが転がっています。よく吟味してに配置した庭石とは全然違った、繊細な茶室に対峙した何か乱暴な感じの配置でした。フランスの文化人類学者レヴィ・ストロースの言うブリコラージュ的配置でした。何か後を引きそうな感覚でした。「蓮華院」を通過して内苑の見学は終了で、ボランティアガイドさんの説明も重要建築の密集した内苑だけでした。数店の茶店のある中央広場に出てきたところで、残った時間をお団子を食べる人。タイムリーにやっていた菊の展示会を見る人、外苑の目玉といえる高台に立つ「旧燈明寺三重塔」(重文)を急な階段を上ってを見に行く人。三溪園では珍しく内部に入る事が出来る飛騨白川郷の合掌造りの民家「旧矢筈原家住宅」を訪れ、大百姓の往時の生活を垣間見る事も出来ました。



終了時間が近づき、三々五々正門付近の藤棚あたりに集まり、伊本会長の締め挨拶をいただき、見学会は無事終了しました。ありがとうございました。



●庭園と結婚式

三溪園の「鶴翔閣」では結婚式が出来ます。見学当日も園内あちこちで新郎新婦が写真・動画?をとっていました。プロ写真家、コーディネーターがついて撮影していましたので披露宴で紹介するものでしょうか。筆者の好きな京都嵯峨野の竹林では此処彼処で同様の風景が見られます。もう50年も前ですがスペインのグラナ



ダ、セビリア、コルドバなどを巡っていた時、何組もの花嫁花婿が町の公園で仲間たちから祝福される姿を見ました。敬虔なカトリックですから教会で式を挙げ、実家で親類縁者が集まり祝宴をするようですが、教会と家、その間にある公園で歓談したり、写真を撮ったりしていたようです。人々の生活に寄り添った庭園=公園の生きた使われ方ではないでしょうか。





シェフ大塚お料理教室 特集2

残念ながら今年度もコロナ禍の影響で開催出来なかったお料理教室ですが、シェフ大塚先生より生徒・保護者の皆さんへのコラムを頂きました。

昨年に引き続き過去のお料理教室のスナップと共に、令和5年度の再開を祈念しつつご覧下さい。

風邪にかからないようにするための対策

風邪のほとんどはウイルスによるものです。風邪は万病の元といわれ、風邪がきっかけでいろいろな病気を誘発しますから、注意が必要です。日頃から、風邪のウイルスに負けない抵抗力をつけておくことが大切になります。健康な体を保つためには栄養・休養(睡眠)・運動のバランスを崩さないことです。結論からいうと、好き嫌いをなく食べること適度な運動をして規則正しい生活をする

こと、がもっとも効果的な予防法といえます。日頃から良質のタンパク質、ビタミン類を豊富にバランスの取れた食事をしていれば、風邪に対する免疫力を高め、抵抗力ある体がつくれます。

タンパク質は免疫物質にもなっている栄養素です。ビタミンAは粘膜を強くし、皮膚も丈夫にします。風邪予防にはウイルスの入り口になる喉の粘膜を丈夫にすることが大切。また疲れを早く回復させることも大切です。疲労回復には糖質をエネルギーに変える、ビタミンB1を多めに摂ることです。

また、ビタミンCは風邪予防のビタミンともいわれ、白血球の働きを助け、ウイルスに直接作用して、その働きを弱めます。

風邪をひいてしまった

風邪は引き始めが肝心、無理をしないで早めに対策をすると回復も早く、軽くてすみます。

風邪の主な症状はくしゃみ、鼻水などですが、せき、発熱、下痢、嘔吐をともなう場合も珍しくありません。

顔色がよく、食欲があり元気であれば問題はないので、体を温かくして、安静にすることが大切です。

部屋を暖かくして、湿度が適度に保たれるように気を付けます。

熱がない場合でも、温かいお茶や白湯、あまり冷たくな

良質のタンパク質やビタミンB1を含むものは肉類や魚類、大豆、大豆製品、卵、牛乳、乳製品。ビタミンAを含むものにはにんじん、カボチャ、ほうれん草、小松菜など緑黄色野菜、ビタミンCはイチゴ、キウイ、グレープフルーツ、ミカン、ブロッコリー、じゃがいもなど果物類やいも類、緑黄色野菜に豊富です。色々な食材を少しずつ使って、食卓をカラフルにするように心がけます。手のひらいっぱい野菜とげんこつサイズの肉または魚、大豆製品、いろいろなものを食べて風邪に負けない抵抗力をつけましょう。

寒くなり空気が乾燥してくる、秋から冬にかけてはウイルスの活躍する季節、受験生にとっても一番大切な時期でもあります。外から帰ったらうがいと手洗い、消毒を忘れずに、日頃のお生活をおろそかにしないようにしましょう。



いジュースなどで水分補給を心がけます。水分補給を心がけないと、脱水症状をおこしやすいからです。

食欲が落ちた場合は、無理に食べさせないで、食欲が出てきたら様子を見ながら、消化がよく、ノド越しのよいものを少しずつ与えます。おかゆ、おじや、うどん、みそ汁、野菜スープ、茶碗蒸し、ゼリーやフルーツヨーグルト、プリンなど、食べられる量を与えます。

1日も無駄にはできない大切な時期なので、早めに対処することがより早い回復に繋がります。

■シェフ大塚(大塚義夫)氏 プロフィール

- 1976年 第1回青年司厨士ヨーロッパ派遣員として欧州各国で修行
- 1978年 フランスプロスペールモンタニエ受賞
- 1981年 レストラン東急支店料理長 就任
- 1993年 レストラン東急本店総料理長 就任
- 1997年 総料理長としてプレッセ1号店を立ち上げる
- 2002年 「見た美味しさ、食べた美味しさ、感動する美味しさ」をコンセプトに食のコーディネーターとして活躍、現在に至る
- 2004年 第1回お料理教室講師エスコフイエ協会日本支部会員

シェフ大塚のお料理教室 レシピ集 (第11回～第16回)



東工大附属高校教育後援会

これまでのレシピ集は後援会HPで公開中!!



一昨年の六義園で開催した庭園見学会には奥様と、昨年の横浜三溪園にはご友人とご一緒にご参加頂きました。来年こそはお料理教室も開催したいです。(会長)

副校長よりお礼(花壇の整備)

副校長 上村佳節

教育後援会のサポートを頂き、令和4年5月から花壇の整備を、野中先生(応化)と有志生徒で進めて参りました。正門からの雰囲気明るくなり、サポートに感謝しております。

今後も開墾・整備を継続し花壇の拡張を予定しております。引き続きよろしくお願い申し上げます。



ありがとうございます!